

第123回横浜市景況・経営動向調査（令和4年12月実施）（通常調査）

調査結果のまとめ

自社業況BSIは、全産業でマイナス19.4となり、3期連続の上昇 先行きについては、物価高騰等の影響により停滞の見通し

【調査のポイント】

- 今期（令和4年10-12月期）の自社業況BSI（※）は▲19.4と、前期（▲23.6）と比べて4.2ポイント上昇しました。
- 業種別では、**製造業の今期のBSIは▲21.9**と、前期（▲27.0）より5.1ポイント上昇しました。**非製造業の今期のBSIは▲17.8**と、前期（▲21.3）より3.5ポイント上昇しました。
- 規模別では、**大企業の今期のBSIは▲15.4**と、前期（▲10.0）より5.4ポイント低下、**中堅企業の今期のBSIは▲13.5**と、前期（▲16.7）より3.2ポイント上昇しました。**中小企業の今期のBSIは▲20.8**と、前期（▲26.2）より5.4ポイント上昇、また**中小企業のうち小規模企業の今期のBSIは▲26.2**と、前期（▲37.1）より10.9ポイント上昇しました。
- 先行きについては、**来期（令和5年1-3月期）の自社業況BSIは▲25.3**と、今期（▲19.4）より5.9ポイント低下、**再来期（令和5年4-6月期）の自社業況BSIは▲22.4**と、来期（▲25.3）より2.9ポイント上昇する見通し。

【調査対象】 市内企業1,000社（回収数：717社、回収率：71.7%）

【調査時期】 令和4年10月24日～11月24日（調査票回答期間及びヒアリング調査期間）

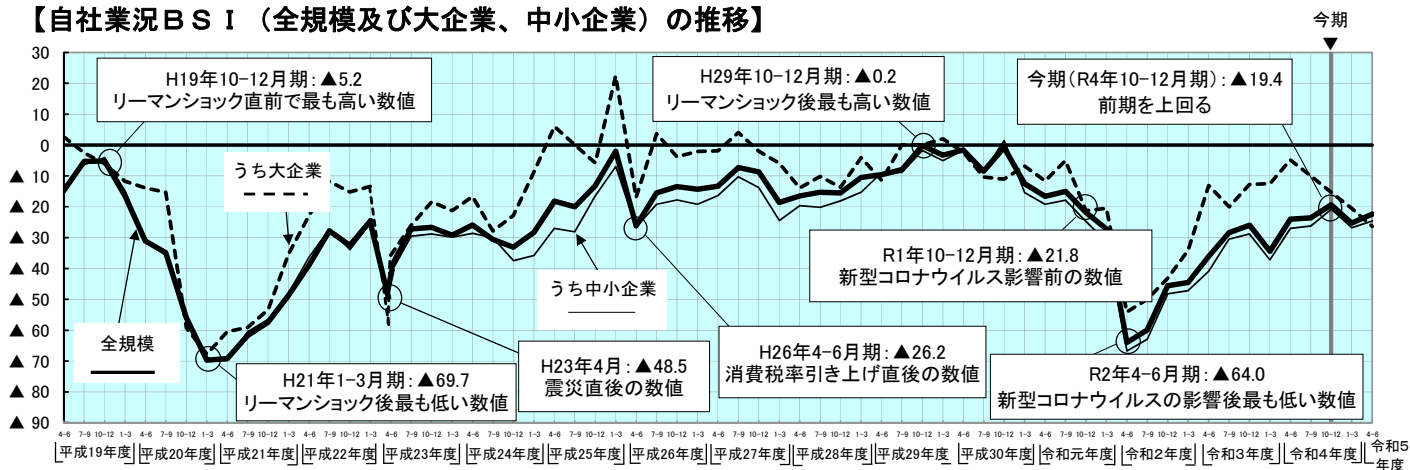
※調査票回答期間は令和4年10月24日～11月16日

※ BSI(Business Survey Index) 自社業況BSIは、自社業況が「良い」と回答した割合から「悪い」と回答した割合を減じた値です。

【調査の概要】

1 自社業況判断（自社業況 BSI：良い%－悪い%）

【自社業況BSI（全規模及び大企業、中小企業）の推移】



【自社業況BSI(業種別・規模別)の推移】

		令和4年	令和4年	令和4年	令和4年	今期-前期	令和5年	令和5年
		1-3月期	4-6月期	7-9月期 (前期)	10-12月期 (今期)		1-3月期 (来期)	4-6月期 (再来期)
業種	全産業	▲34.4	▲24.0	▲23.6	▲19.4	4.2	▲25.3	▲22.4
	製造業	▲32.9	▲31.8	▲27.0	▲21.9	5.1	▲31.3	▲26.5
	非製造業	▲35.3	▲18.7	▲21.3	▲17.8	3.5	▲21.4	▲19.6
規模	大企業	▲12.5	▲4.8	▲10.0	▲15.4	▲5.4	▲20.5	▲26.3
	中堅企業	▲29.8	▲17.8	▲16.7	▲13.5	3.2	▲19.1	▲9.4
	中小企業	▲37.2	▲27.0	▲26.2	▲20.8	5.4	▲26.8	▲24.6
	うち小規模企業	▲44.0	▲33.9	▲37.1	▲26.2	10.9	▲32.9	▲25.8

（注）令和5年1-3月期及び令和5年4-6月期は見通し。

【業種別動向】(前期:令和4年7月～9月期、今期:令和4年10月～12月期、来期:令和5年1月～3月期)

業種	前期	今期	来期	ヒアリング対象企業のコメント
食料品等	0.0 (0.0)	▲17.4 (▲14.3)	▲43.5 (▲42.9)	・社は値上げしていないものの、中間業者が送料を上げたことにより大手スーパーへの出荷が減った。物価高の影響が今後も続くことで、来期以降の業況悪化が懸念される。(加工品製造) ・コロナ禍により飲食店の業績が戻らないため、今期も、この先も業況に不安がある。あらゆる原材料の高騰が影響しており、いつまで高騰が続くのか心配している。(食料品製造)
鉄鋼・金属等	▲18.3 (▲18.3)	▲11.2 (▲11.4)	▲25.8 (▲26.3)	・乗用車など売上の調子が良くない品目がある一方、トラックや建設機械など昨年度と比較すると大きく増えている品目があり、落ち込みは少ない。(金属熱処理加工) ・海外、国内ともにコロナ前の状況と同じくらいに戻ってきた。エネルギー価格、原材料価格の高騰がすぐさま経営に影響してくるため、その点が来期以降の懸念材料。(自動車部品製造)
一般機械	▲29.1 (▲30.0)	▲35.5 (▲35.1)	▲36.1 (▲35.7)	・電気代の上昇や物価の高騰が収束する兆しがないことに加え、新規参入する事業者が増加して価格競争が発生したことにより、今期や来期の業況は厳しいと判断した。(プレス金型設計製作) ・販売先が物価高の影響を受けているため、設備投資を控えることで機械の部品が売れなくなると予想。円高に戻ると為替差益が得られず、業況は悪化すると思っている。(食品加工機械)
電機・精密等	▲15.6 (▲17.5)	▲15.3 (▲12.2)	▲19.5 (▲19.5)	・半導体業界全体が引き続き好調であり、受注が絶えない。エネルギー業界もカーボンニュートラルの取組が普及しており、好調を維持できている。 ・前期と比べて大きな変動はなかったが、半導体測定器の売上が増加した。来期以降も比較的安定して推移すると予想している。(ともに機器製造)
輸送用機械	▲47.3 (▲50.0)	▲25.0 (▲33.3)	▲31.6 (▲35.7)	・受注が増加しており、売上も上がっているため、業況は良い。自動車の部品を製造しており、自動車生産業者からの発注が増えている状況。EV自動車導入の加速などが、受注増につながっていると思われる。(アルミ金型加工) ・大型観光バスの部品製造を行っている為、コロナ禍により低迷している観光事業の復活などに伴い、売上が上がった。(プレス加工)
建設業	▲19.3 (▲20.5)	▲19.7 (▲24.1)	▲18.0 (▲18.5)	・今期の売上前年比は同じくらいか、やや増程度だが、資材・人件費・ガソリン代等の高騰が発注額に追いついておらず、利益が少なくなってしまうのが現状である。(舗装工事) ・業種的に、年間を通して下期が堅調となる傾向にあり、今期も業況は落ち着いている。戸建住宅の引き合いが増加しており、その傾向は来期以降も続く見込み。(室内工事)
運輸・倉庫業	▲19.2 (▲17.1)	▲10.1 (▲10.4)	▲18.6 (▲20.9)	・メインの事業については比較的業況が良くなってきているが、燃料の高騰などの影響により、悪化している部分もある。来期以降は悪化傾向になるのではと懸念している。(港湾運送事業) ・製造業やレンタル業に対する売上が好調で、それに伴い、物流の請負事業で結果が出せている。資材費の高騰の影響はあるものの、取引先選定等の工夫を行っている。(物流業務請負)
卸売業	▲1.5 (2.1)	▲4.8 (0.0)	▲16.1 (▲10.9)	・仕入先からは、年明け以降に資材を値上げすると言われていた。一方、取引先からはさらに値下げするように要請されており、仕入コスト、人件費高騰など考慮してもらえない状況。 ・生産元や輸入元の事業者からは、為替差分等の費用上昇を価格に転嫁したいという話も増えてきており、仕入れ値の押上り要因となっている。取引先からの需要は鈍化している。(ともに卸売業)
小売業	▲37.5 (▲40.8)	▲32.1 (▲32.4)	▲37.8 (▲35.3)	・店舗内装をリニューアルした結果、客数は伸びていないが客単価が上がった。ネット集客の取組もすすめ、ウェブ広告に力を入れていることから、遠方からの注文が増えた。(寝具販売) ・感染状況が比較的落ち着いた9月頃は、やや回復傾向であった。石材の値上げや円安、新型コロナウイルスの影響で、来期以降の業況は悪化する見込み。(石造品販売)
飲食店・宿泊業	▲71.5 (▲90.0)	▲40.0 (▲60.0)	▲60.0 (▲80.0)	・販売価格を値上げしているため、売上自体は増加傾向。今期はコロナの影響も落ち着き、お客様も戻ってきている印象。来期以降は、感染状況の悪化や仕入価格上昇により、利益が落ち込むと思われる。業況は悪くなると予想している。(飲食業) ・10月は感染状況の落ち着きに加え、全国旅行支援が開始されたことで業績が大きく回復したが、仕入れ値・電気料金高騰の他、第8波の不安等、依然として厳しい状況は続いている。(宿泊業)
不動産業	▲35.7 (▲50.0)	▲31.3 (▲38.9)	▲25.0 (▲27.8)	・グローバルな市況など、景気の先行きの不透明感が高まるほど、内需は手堅く推移する印象がある。自社で培ってきた既存顧客からの引き合いも、引き続き堅調である。 ・新型コロナウイルスの影響が緩和したことから、徐々に顧客の動きが戻ってきたが、コロナ禍以前の業況にはまだ戻っていないように感じる。(ともに不動産業)
情報サービス業	0.0 (0.0)	▲8.9 (▲20.0)	▲4.6 (▲10.5)	・商品は中国で生産しているが、半導体不足や円安のため、為替損で厳しい状況が続いている。いくつか商談も進んでいるため、来期以降の業況は上向き見通し。(ソフトウェア開発) ・直接的なコロナの影響はないが、間接的な影響として、顧客側のニーズが減少している。顧客側の動きが鈍くなっており、契約に結びつかないケースが増えている。(ウェブサイト構築)
対事業所サービス業	▲22.9 (▲30.3)	▲14.1 (▲16.2)	▲10.9 (▲10.8)	・前年度の同時期と比較して売上は2割程度増加している。感染症が収まってきたことにより、依頼者側が計画を立てやすくなり依頼が増えてきていると考えられる。(建築・設計) ・今期も来期も業況は上向きと予想している。今まで感染症の影響で業界全体の動きが滞っていたため、その反動で今まで以上に活発になると見込んでいる。(機器賃貸)
対個人サービス業	▲30.6 (▲42.4)	▲24.3 (▲26.6)	▲36.1 (▲36.7)	・電気・ガス料金の値上げの影響を多く受ける業態のため、厳しい状況が続いている。来期・再来期に原油価格やコロナの影響が改善する見込みもないため、業況は悪くなっていくと考えている。(クリーニング) ・新型コロナウイルス流行当初に施設が閉鎖となり、会員数が激減して以来、なかなか会員が戻ってこない状況が続いている。電気・ガス料金の値上げの影響も多く、業況は悪い。(スポーツ施設)

※BSI=自社業況「良い」%-自社業況「悪い」%

※今期の BSI (全規模) が前期よりも 10 ポイント以上差がある、

業種については、矢印を表記している。

※表中の見方は右図の通り。

	← 天気マーク(下図参照)
▲ 5.8	← 全規模のBSI値
(▲ 22.2)	← 中小企業のBSI値

BSI	▲60.1以下	▲60.0～▲40.1	▲40.0～▲20.1	▲20.0～▲5.1	▲5.0～5.0	5.1～20.0	20.1以上
天気							

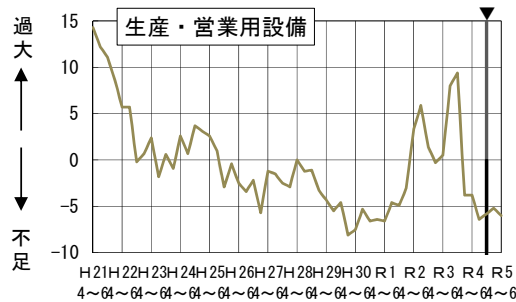
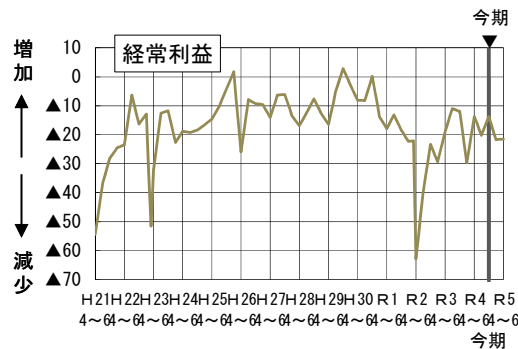
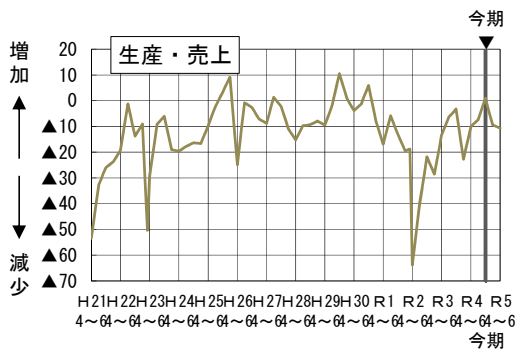
2 主要項目の推移

【主要項目(全産業)の推移】

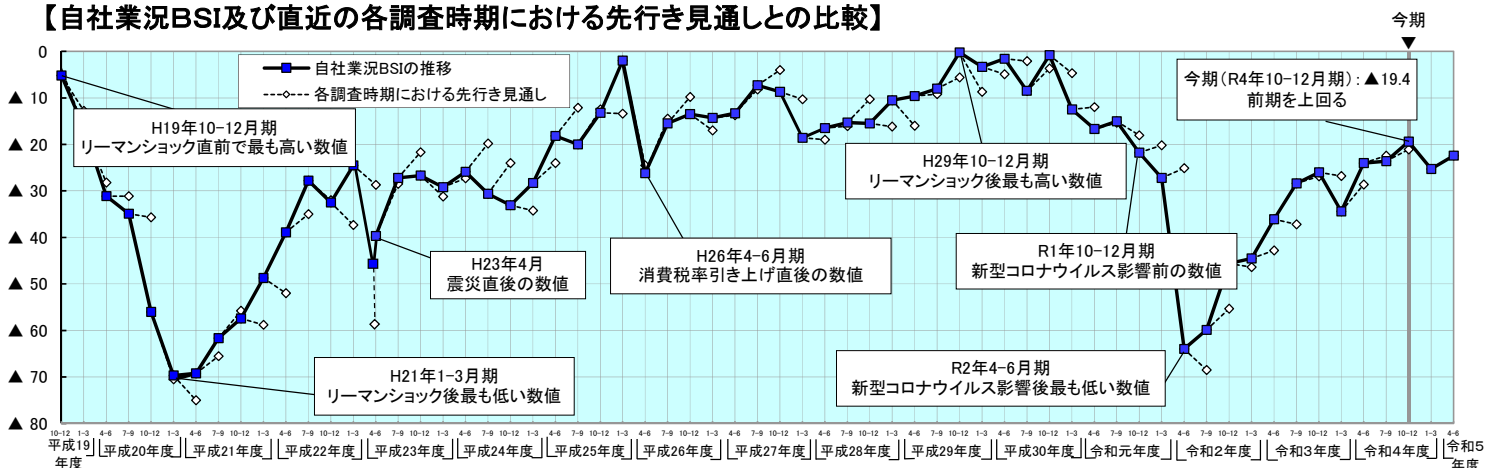
	令和4年 1-3月期	令和4年 4-6月期	令和4年 7-9月期 (前期)	令和4年 10-12月期 (今期)	今期-前期	令和5年 1-3月期 (来期)	令和5年 4-6月期 (再来期)
	自社業況	▲34.4	▲24.0	▲23.6	▲19.4	4.2	▲25.3
(1)生産・売上	▲22.7	▲10.1	▲7.4	1.0	8.4	▲9.4	▲10.7
(2)経常利益	▲29.7	▲13.7	▲20.2	▲13.7	6.5	▲21.7	▲21.5
(3)資金繰り	▲9.4	▲5.9	▲8.8	▲9.1	▲0.3	▲10.6	
(4)雇用人員	▲26.5	▲24.9	▲26.7	▲34.5	▲7.8	▲34.1	
(5)生産・営業用設備	▲3.8	▲3.8	▲6.4	▲5.8	0.6	▲5.2	▲6.0

(注) 令和5年1-3月期及び令和5年4-6月期は見通し。

(3) 資金繰り及び(4) 雇用人員については、令和5年4-6月期の見通しは調査対象外としている。



【自社業況BSI及び直近の各調査時期における先行き見通しとの比較】



(参考資料) 自社業況BSI (業種別・規模別の推移)

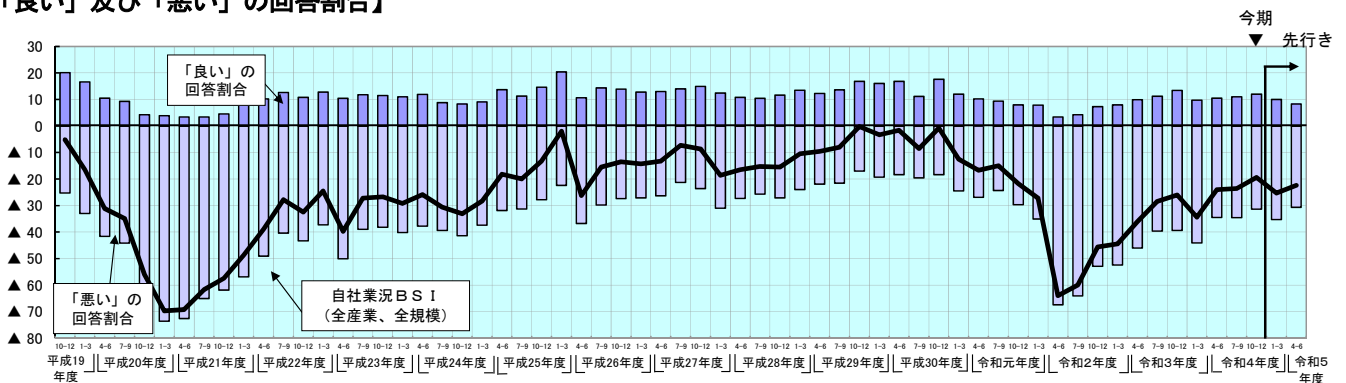
	令和4年	令和4年	今期-前期	10-12月期の回答の割合%			令和5年	令和5年	回答 企業数
	7-9月期	10-12月期		良い	普通	悪い	1-3月期	4-6月期	
全産業	▲ 23.6	▲ 19.4	4.2	12.0	56.6	31.4	▲ 25.3	▲ 22.4	(※) 716
製造業	▲ 27.0	▲ 21.9	5.1	13.9	50.3	35.8	▲ 31.3	▲ 26.5	288
食料品等	0.0	▲ 17.4	▲ 17.4	17.4	47.8	34.8	▲ 43.5	▲ 30.4	23
繊維・衣服等	▲ 42.9	▲ 25.0	17.9	12.5	50.0	37.5	▲ 25.0	▲ 25.0	8
印刷	▲ 50.0	▲ 42.9	7.1	0.0	57.1	42.9	▲ 28.6	▲ 14.3	14
石油・化学等	▲ 37.5	▲ 12.5	25.0	20.8	45.8	33.3	▲ 33.4	▲ 20.9	24
鉄鋼・金属等	▲ 18.3	▲ 11.2	7.1	19.4	50.0	30.6	▲ 25.8	▲ 24.6	62
一般機械	▲ 29.1	▲ 35.5	▲ 6.4	11.3	41.9	46.8	▲ 36.1	▲ 31.7	62
電機・精密等	▲ 15.6	▲ 15.3	0.3	13.0	58.7	28.3	▲ 19.5	▲ 19.6	46
輸送用機械	▲ 47.3	▲ 25.0	22.3	10.0	55.0	35.0	▲ 31.6	▲ 36.8	20
その他製造業	▲ 41.7	▲ 24.2	17.5	10.3	55.2	34.5	▲ 42.8	▲ 32.2	29
非製造業	▲ 21.3	▲ 17.8	3.5	10.7	60.7	28.5	▲ 21.4	▲ 19.6	428
建設業	▲ 19.3	▲ 19.7	▲ 0.4	9.8	60.7	29.5	▲ 18.0	▲ 30.5	61
運輸・倉庫業	▲ 19.2	▲ 10.1	9.1	8.5	72.9	18.6	▲ 18.6	▲ 25.9	59
卸売業	▲ 1.5	▲ 4.8	▲ 3.3	19.4	56.5	24.2	▲ 16.1	▲ 16.7	62
小売業	▲ 37.5	▲ 32.1	5.4	11.3	45.3	43.4	▲ 37.8	▲ 34.0	53
飲食店・宿泊業	▲ 71.5	▲ 40.0	31.5	13.3	33.3	53.3	▲ 60.0	▲ 40.0	15
不動産業	▲ 35.7	▲ 31.3	4.4	0.0	68.8	31.3	▲ 25.0	▲ 22.5	32
情報サービス業	0.0	▲ 8.9	▲ 8.9	11.1	68.9	20.0	▲ 4.6	7.3	45
対事業所サービス業	▲ 22.9	▲ 14.1	8.8	10.9	64.1	25.0	▲ 10.9	▲ 4.7	64
対個人サービス業	▲ 30.6	▲ 24.3	6.3	8.1	59.5	32.4	▲ 36.1	▲ 22.3	37

BSI (Business Survey Index)は、景気の強弱感を次の算式により求めている。BSI = 良い% - 悪い%

	令和4年	令和4年	今期-前期	10-12月期の回答の割合%			令和5年	令和5年	回答 企業数
	7-9月期	10-12月期		良い	普通	悪い	1-3月期	4-6月期	
全産業	▲ 23.6	▲ 19.4	4.2	12.0	56.6	31.4	▲ 25.3	▲ 22.4	(※) 716
大企業	▲ 10.0	▲ 15.4	▲ 5.4	5.1	74.4	20.5	▲ 20.5	▲ 26.3	39
中堅企業	▲ 16.7	▲ 13.5	3.2	13.5	59.5	27.0	▲ 19.1	▲ 9.4	111
中小企業	▲ 26.2	▲ 20.8	5.4	12.2	54.8	33.0	▲ 26.8	▲ 24.6	566
うち小規模企業	▲ 37.1	▲ 26.2	10.9	12.9	48.0	39.1	▲ 32.9	▲ 25.8	202
製造業	▲ 27.0	▲ 21.9	5.1	13.9	50.3	35.8	▲ 31.3	▲ 26.5	288
大企業	0.0	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0	66.7	33.3	▲ 22.2	▲ 11.1	9
中堅企業	▲ 27.3	▲ 20.0	7.3	10.0	60.0	30.0	▲ 30.0	▲ 11.1	10
中小企業	▲ 27.8	▲ 21.6	6.2	14.5	49.4	36.1	▲ 31.6	▲ 27.5	269
うち小規模企業	▲ 36.4	▲ 27.7	8.7	14.3	43.7	42.0	▲ 33.0	▲ 27.3	119
非製造業	▲ 21.3	▲ 17.8	3.5	10.7	60.7	28.5	▲ 21.4	▲ 19.6	428
大企業	▲ 12.1	▲ 10.0	2.1	6.7	76.7	16.7	▲ 20.0	▲ 31.0	30
中堅企業	▲ 15.5	▲ 12.8	2.7	13.9	59.4	26.7	▲ 18.0	▲ 9.2	101
中小企業	▲ 24.8	▲ 20.2	4.6	10.1	59.6	30.3	▲ 22.6	▲ 22.0	297
うち小規模企業	▲ 38.1	▲ 24.1	14.0	10.8	54.2	34.9	▲ 32.6	▲ 23.5	83

(※) 回収数 (717件) のうち、無回答数 (1件) を除いた値。

【「良い」及び「悪い」の回答割合】



◎ 報告書掲載 URL <https://www.city.yokohama.lg.jp/business/kigyoshien/tokei-chosa/keikyou.html>

問合せ先		
経済局政策調整部企画調整課長	高橋 正海	Tel 045-671-2565
横浜商工会議所企画課長	牧畑 昌明	Tel 045-671-7433